

|  |   |         |              |
|--|---|---------|--------------|
| 科目名 (英文表記)   | <p style="text-align: center;"><b>アントレプレナーシップ I</b><br/>(エシカル・アントレプレナーシップ)<br/>(<b>Entrepreneurship I</b> )</p> |         |              |
| 科目区分   | 基本科目  | 単位数     | 2 単位         |
| 担当教員名  | 泉 貴嗣  | ナンバリング  | MBA_B_VM5111 |
| 研究室番号  | 420   | 研究室電話番号 | 27-5490      |
| Eメール・アドレス  | c-cat22@res.otaru-uc.ac.jp  |         |              |
| <b>授業の内容及び方法：</b> 次頁以降に記載  |   |         |              |
| <p><b>授業の目的：</b><br/>         本科目の目的は、現代のビジネスにおけるサステナビリティ(社会の持続可能性)と倫理の重要性を理解し、これらを実現するためのエシカル・ビジネス(倫理的なビジネス)を創造するアントレプレナー(起業家)、イントレプレナー(社内起業家)、そして社会と共生する組織、ビジネスを目指すマネージャー、リーダーに必要な視野、スキルの基礎を培うことを目的としています。<br/>         なお、本科目では、上記の理解に欠かせないCSR(企業の社会的責任)、ソーシャルビジネス、SDGs(持続可能な開発目標)、コーポレートガバナンスなども取り扱います。</p>  |   |         |              |
| <p><b>到達目標：</b><br/>         1.現代のビジネスにおける倫理とサステナビリティの重要性を理解する<br/>         2.エシカル・ビジネスの概要を理解する<br/>         3.エシカル・ビジネスのデザイン、エシカルな組織のマネジメントの基本的なスキルを習得する</p>  |   |         |              |
| <p><b>使用教材：</b><br/>         本科目では教科書は指定しません。ただし、受講前にエシカル・アントレプレナーシップのイメージを掴むために、下記書籍の購読を強く推奨します。<br/>         『9割の社会問題はビジネスで解決できる』(著)田口一成著(PHP研究所 2021年)<br/><br/>         下記はエシカル・ビジネスの実務家向けの参考図書として紹介します。<br/> <b>【書籍】</b><br/>         『エシカル・アントレプレナーシップ』(編著)横山恵子、(著)杉本貴志、長谷川伸、宮崎慧(中央経済社 2018年)<br/> <b>【ガイドライン等】</b><br/>         『中小企業のための人権デュー・ディリジェンス・ガイドライン～持続可能な社会を実現するために』(編著)国際経済連携推進センター(2022年)<br/>         『責任あるサプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン』(編著)ビジネスと人権に関する行動計画の実施に係る関係府省庁施策推進・連絡会議(2022年)<br/>         ※その他の参考図書がある場合は、講義内で随時紹介します</p> |   |         |              |
| <p><b>成績評価の方法：</b><br/>         成績評価は、以下の評価項目に基づいて行います。<br/>         ・事前・事後課題(最終課題を除く)：60%<br/>         ・最終課題(グループワークで作成)：30%<br/>         ・最終課題におけるグループメンバー間の相互評価：10%<br/>         評価に不服がある場合には、不服申立書を以て教務委員長に申し出てください。</p>   |   |         |              |

**履修上の注意事項：**

1. 講義は基本的に【講義+グループディスカッション】の組み合わせで進行します。
2. 本科目は感染症の蔓延などが無い限り、対面講義で行います。
3. モジュール3ではゲスト講義を予定していますが、ゲストの予定によっては開催モジュールが変更となる場合があります。
4. 講義の進行状況、受講者の状況などによっては講義内容を変更する場合があります。
5. 課題でレポート等を課す場合は枚数の上限を指定しますが、上限枚数ちょうど、またはそれに近いほど高評価となる訳ではありません。あくまでもレポートの内容の良否のみが評価の対象となります。
6. 提出課題について、レポート課題の場合は評点と共にフィードバックコメントを付けて返しますが、リサーチ課題の場合は評点のみで、フィードバックコメントはありません。
7. 本科目では課題のリサーチのために生成系AIを使うことを認めますが、課題の分析、考察、これらに伴う文章作成で生成AIを使うことを認めていません。生成系AIを使ったことが疑われる場合は、当該モジュールの課題の評点を0点にすることがあります。
8. 本科目ではその特性上、グローバルサプライチェーンと人権問題について言及する回がありますが、特定の国の政治体制等を批判することが目的ではありません。そのため、当該言及についての抗議などは一切受け付けません。抗議などを行った場合は、当該モジュールの課題の評点を0点にすることがあります。
9. 本科目のモジュール8は講義時間を延長し、16時限(21:40終了)まで実施します。

本科目は文部科学省からの委託事業「人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業」における神戸大学・和歌山大学との共同プログラム「地域/社会課題を解決する対話型ビジネス価値共創人材養成のための価値創発から社会実装までの一貫教育プログラム」の適用科目の一つであり、3カテゴリーのうち価値創発科目群に属します。なお、本プログラムを終了するためには3カテゴリーから1科目以上を履修し、合計10単位以上を習得する必要があります。